

大学生におけるSNSによる交友関係に生じる事象について
本田啓斗 (22011302kh@tama.ac.jp)

1. 研究の背景・目的

私が「SNSによる交友関係の変化」について研究しようと思った背景は、スマートフォンやインターネットの普及により多くの方がSNSを利用しており、オンライン上で何かを伝えることが増えている。

SNSでは写真や動画を投稿し多くの人に何かを伝えることができたり、文字で相手と会話することができる。そのため、直接対面で話すことや電話をすることなどは違い意味がうまく伝わらないことがあると感じたため研究を始めた。

スマートフォンやインターネットの普及により多くの方がSNSを利用しており、オンライン上で何かを伝えることが増えている。また、SNSでは写真や動画を投稿し多くの人に何かを伝えることができたり、文字で相手と会話することができる。そのため、直接対面で話すことや電話をすることなどは違い意味がうまく伝わらないことがあると感じたからである。

研究の目的は電話や対面での会話と違い文字だけの会話のため、お互いに意味が伝わりづらいことから、SNSによって交友関係にどのような変化があるかである。

2. 研究方法

実際に紙媒体・Googleフォームの二つでアンケートを取り、アンケートの中に実際に体験したことなどを記述式で書いてもらう質問も入れてアンケートを取る。

3. 先行研究の分析

先行研究では、高校生がSNSによってネガティブな経験に繋がるということを、友人関係に基づいて書かれている。友人関係においてSNSの利用がネガティブな経験につながらないこと、傷つけあうことを回避しようとする傾向が強い場合に、SNSによってネガティブな経験が増大することが先行研究で分かった。またこのことからSNSは友人関係にネガティブな印象やダメージを与える可能性があることが分かった。

4. 今後の課題

- ・早急にアンケートを作成する
- ・アンケートをとる

- ・アンケートから結果を分析する

参考文献

高校生の友人関係とSNS利用に伴うネガティブ経験 (中山満子：奈良女子大学 文学部)